

九州大学経営協議会議事録

日時：平成31年1月25日（金）13：00～14：15

場所：九州大学 椎木講堂大会議室

出席者：29名中22名出席

【構成員等の紹介】

経営協議会委員（学内）の就任について紹介があった。

【審議事項等】

1 平成29年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

平成29年度に係る業務の実績に関する評価の結果について報告があり、以下のような質疑応答があった。

- ・評価基準となるルーブリックはどのように作成されているのか。
→基本的には教育企画委員会において基準を示し、各部局の教務委員会等でカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー等に照らして作成している。教育改革推進本部に専任教員を配置し、ルーブリック評価の導入や活用について、各部局に助言を行っている。
- ・九州大学起業部の活動はどれくらいのボリュームで行われているか。
→現在起業準備中のものが2件ある。大学教員の研究成果を活用するところが特徴となっている。
- ・九州大学病院における院内表示の多言語化についてはどのような状況か。
→九州大学病院では約40カ国から患者を受け入れており、国際医療部国際診療支援センターが中心となって国際化に対応している。中国語・英語の通訳者を配置しているが十分ではなく、医療通訳ツール等を利用し対応している。院内表示の多言語化については、できるところから順次対応している。
- ・「財務内容の改善に関する目標」について、順調に進んでいると評価されている。九州大学の財務状況は厳しい状況にあると理解しているが、順調という認識でいいのか。
→平成30年度以降、より厳しい財務状況となっているため、更なる財務内容の改善に取り組んでいかなければならないと考えている。

2 2019年度予算の内示について

2019年度予算の内示について報告があり、以下のような質疑応答があった。

- ・2019年度以降の評価に基づく資源配分に係る指標について、九州大学としてはどのように捉えているか。
→運営費交付金等コストあたりトップ10%論文数について、総合大学は分母が多くなってしまっているので、総合大学は軒並み苦戦するところかと考えている。
→また、教員一人当たり外部資金獲得実績については、本学の教員は件数に比べて額が少ない傾向にある。
- ・文系において、分野によってはトップ10%論文であることにまったく意味がないものもある。文部科学省の分科会や人間文化研究機構等において、文系の評価指標の在り方を考える議論が進められている。
→文系の評価において、定量的なデータに基づく評価は馴染まないものは多い。

→本学においても部局固有の評価の手法について議論を進めている。

→文部科学省から提示されている指標には、例えば教育に関する評価指標が含まれていないなど、本指標が大学の力を正確に反映するものとは言えない。国大協等を通じて再三見直しの要望を行ってきたが、当面は対応していかざるを得ない状況。

3 財務レポートについて

財務レポート 2018 について報告があり、以下のような質疑応答があった。

- ・九州大学日本橋サテライトについて、ライフサイエンス分野に限らず、幅広く交流する場となるといいのではないか。

→設置場所の制約があり、ライフサイエンス分野と何かしらの関係があることが必要となっている。東京オフィスなど他の施設もあるので活用いただければ幸い。

【その他、報告事項等】

- 大学紹介動画 - Kyushu University: Countless Ways to Connect-
新たに作成され大学紹介動画について報告があった。

【懇談会】

- 「九州大学の昆虫科学研究の現状と展望」と題して九州大学における研究活動の紹介があった。

【その他】

次回の経営協議会は平成31年3月26日（火）に開催予定である旨の案内があった。

(以 上)